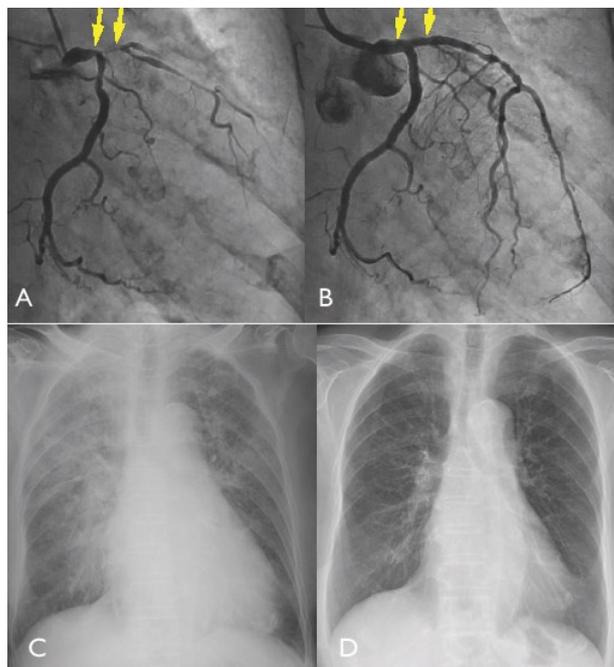


北九州市は全国の政令指定都市の中で最も高齢化がすすんでいる都市で、地域の皆さんが長寿であることは喜ばしいことです。我々が診療にあたっている循環器救急患者さんの中では、急性心筋梗塞と急性心不全が二大疾患です。当科の緊急入院患者さんは年間約650名で、このふたつの疾患が全体の3分の2を占めますが、治療にあたり高齢化に伴う様々な問題があります。ご高齢の方は心肺機能の予備能が少ないだけでなく、併存症をお持ちの方が多く、病気が重症化、複雑化することが稀ではありません。とくに糖尿病による腎機能障害や全身の動脈硬化症は、カテーテル治療が必要な急性心筋梗塞の場合に支障となることがあります。患者さんの年齢にかかわらず心筋梗塞に対しては早期のカテーテル検査や治療が推奨されているものの、腎不全や脳血管障害などの合併症を危惧して、積極的な治療が稀ならず躊躇されていると、とくに欧米で報告されています。

症例は88歳の小柄なご婦人で、急性心筋梗塞で来院されました。糖尿病性腎障害があり、透析はされていないものの、eGFRは22 mL/min/1.73m²とステージ4の高度腎障害をお持ちでした。もともと大変お元気な方で、救命のため緊急冠動脈造影を施行することになりました。その結果、左冠動脈主幹部から前下行枝にかけて高度狭窄病変(図A)を認め、薬剤溶出性ステントを2ヶ留置して再灌流に成功しました(図B)。それに伴い肺水腫も改善(図C、D)、幸い透析に至ることもなく、第18病日に自宅へ独歩退院されました。その後1年以上経過していますが、90歳になった現在も豊饒とされ、元気に外来にお見えになっています。

2014年に当科に緊急入院になった心筋梗塞に代表される急性冠症候群の患者さんは161名で、全体の



4分の1は80歳以上の方です。97%の方がカテーテル検査を受けましたが、危惧される脳血管障害などの重篤な合併症は1例もありませんでした。現在北九州市における心筋梗塞患者さんの全例登録を通じて、域内で発症された患者さんの臨床背景や治療内容についての解析を行なっていますが、高齢患者さんにおいても高い再灌流成功率、低い死亡率が示されており、これらの成績は欧米からの報告に比べても格段に優れたものになっています。薬物療法の進歩、新しいステントや治療器具の登場も重要ですが、北九州市は循環器専門病院へのアクセスが容易であることが良好な治療成績の大きな理由と思われます。心筋梗塞や不安定狭心症など生命を脅かす可能性の高い疾患が疑われる時は、躊躇されることなくただちに専門病院へ連絡していただくことが極めて重要です。